

柏木ビジョン

新宿区立
柏木小学校

2024.11.13

仕掛ける授業 変わる子どもたち

2学期の授業が軌道に乗り始めました。このところ、柏木小学校には、遠方から飛行機や新幹線を使い継いでも、柏木小学校で行われている授業を参観したり、実際に授業を見たりしたいという申し出が多数あり、よい刺激になっています。

2学期となりましたので、柏木小学校でどのような授業が行われ、子どもたちがどのように変化をしているのかを、ご紹介していきたいと思います。

『ちいちゃんのかげおくり』の場面から読み取ったこと①

3年生国語コース別の授業の様態です。授業者は菅野先生でした。

「先生から聞きたいことがあるんだけど、あつのようなさむいような、という表現があるのだけれども、どういふことですか」

○幽体離脱かな。

○戦争があったから燃えていて、暑くて、それでも怖くて、武者震いみたいで寒かったんだと思う。

○もうすぐ死んでしまうかもしれりないような感じて、のどもかわいているし、くらくらだった。

○熱もあって、暑いような寒いような感じだった。

○脱水症状じゃなかったのかな。

「たった一つのかげぼうしを見つめながら、この場面では何人でかげおくりをしているのですか」

○1人

「この場面が終わる時には」

○4人

「どういふことですか」

○空に上っている。

「お父さんはここにいるの」

○ここにはいない。

○幻覚とか幻聴とか。

○ちいちゃんは、脱水症状でふらふらだから、もうすでに幻が見えるくらいに弱ってしまっている。

○自分が旅行しているときに、姉が熱が出て、幻覚が見えておかしいことを言っていた。だから幻覚なんだと思う。

○幻覚だと思う。お父さんやお母さんなら、ちいちゃんに生きていてほしいと願うと思うから。

『ちいちゃんのかげおくり』について

戦争が激しくなった頃、病弱のお父さんにも召集令状が来ました。出兵する前日、覚悟を決めたようにご先祖の墓参りに家族で出かけるのでした。ちいちゃんは、こういった状況もわからないぐらいの本当に小さな女の子だったのです。

公園でちいちゃんのお父さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんに『かげおくり』と言う遊びを教えます。地面に映る自分たちの影を数秒間見続け空を見ると、影が空に残像として浮き上がって見えるものです。それを教えてもらったのはお父さんが兵隊に行く前日でした。

しかしそんなことを知らない 2 人はかげおくりをして公園で仲良く遊んでいました。ある日、空襲がありお母さんはちいちゃんとお兄ちゃんを連れて逃げましたが、人混みの中だったのでちいちゃんは 1 人はぐれてしまいます。

途中、知らないおじさんに助けてもらいお母さんに似た人を見つけましたが、人違いでした。次の日ちいちゃんは自分の家に戻ります。家は空襲で大破していました。

ちいちゃんはそこではす向かいのおばさんに声をかけられます。お母さんとお兄ちゃんは？と聞かれますが、お母さんはここに戻ってくると言いおばさんとお別れしました。ちいちゃんは 2 人が戻ってくると信じ近くにある防空壕でずっと待ち続けました。

何日か経った頃、ちいちゃんは明るい光で目を覚まします。すると空から、お父さんとお母さんの声、お兄ちゃんの声が聞こえてきました。『みんなでかげおくりをしましょう』と声がし、地面を見ると 4 つの影がありました。

ちいちゃんは安心しました。みんなこんなところにいたのね、と。ちいちゃんは体が軽くなりお空に浮かんで行きました。こうして、ちいちゃんは亡くなってしまいます。

『ちいちゃんのかげおくり』の場面から読み取ったこと②

「体がすうっとすきとおって～、という表現は、どのように考えればよいですか」

○魂がぬける。

○亡くなってしまった。

○空に消えてしまったということは、空に吸い込まれていくことだと思う。

○ちいちゃんは横たわっていたのではないか。

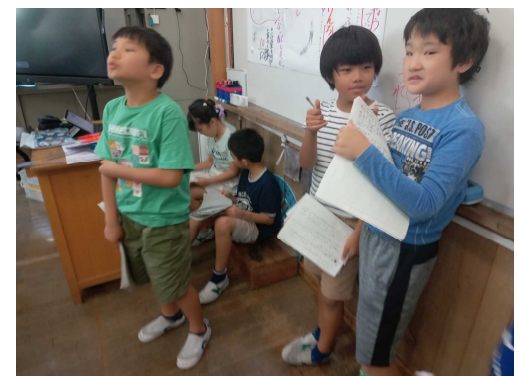
「ちいちゃんはつらいのかな」

○つらい。

「でもちいちゃんは、きらきら笑い出しました。このとき、ちいちゃんはどんな思いだったのでしょうか。ちいちゃんの思いを**共感的**にとらえましょう」

「書けた人から情報交換をしてください」

子どもたちは各々が歩き回って、意見交換をしていきます。



自分と違う考えを仕入れるのです。

「それでは発表してください」

○まぼろしでも家族と会えたことでうれしかったんだと思う。

○自分の願いがやっとかなったのだから、きらきら笑ったんだね。

○家族に会えて安心したんだね。

○ちいちゃんは、お父さんとお母さんと会えたからきらきら笑ったんだね。

○幻でもなんでもいいから、家族と会えたからうれしかった。

○具合が悪かったんだけど、ずっと家族に会いたかったんだから、うれしい。

『ちいちゃんのかげおくり』の感想を問う

「ちいちゃんのような幼い子が、きらきらと笑いながら空に上っていった。こういう状況から皆さんは何を考えますか。自分と向き合って考えてほしい」

○私は、ちいちゃんは、まだまだ人生は長いのに亡くなってしまって悲しい。

○ちいちゃんのように、これから生きていけるのに、亡くなってしまったことを、ちいちゃんは嬉しそうだと感じてしまうことが、悲しい。

はじめての平和教材

『ちいちゃんのかげおくり』は、3年生にとって、はじめての戦争を題材に扱う平和教材です。小学校では、戦場の痛ましい体験をテーマとするのではなく、家族の別離や死を匂わすことで、悲壮感や戦争自体が何を奪っていくのかを、感じさせられることが多いのです。3年生にとっては、戦争というものがピンとはきませんし、すぐに「かわいそう」「気の毒だ」と、自分とは別世界のことのように思いを抱きがちです。

国語の指導は、教材の内容(何が書かれているのか)を伝達するのではなく。それを元に思いをめぐらせ、主人公や登場人物の心情と同化して考えたり、物語のテーマに迫ったりすることが大切となります。この物語文は、ちいちゃん自身は、家族とはぐれ、「淋しかった」し、独りぼっちでいることが悲しかったのでしょう。それに対して、読者である我々は、その姿を思い浮かべた時に「哀しかった」のです。

国語は、時として、夢や希望を抱くものですが、時として、この物語のように不条理について考えるものです。正答こそありませんが、3年生においても、感じてほしい、考えてほしいことはたくさんあります。

今回のような学びが、積み重なっていくことで、目に見えたことばかりでなく、相手の隠れた心情についても思いをはせて「共感」することのできる資質や能力につながってってくれることを切に願います。

